

2024年3月期第1四半期 決算報告会

 丸一鋼管株式会社

取締役副社長執行役員 森田 渉

2023年8月7日

- I. 2024年3月期 第1四半期 決算概要
- II. 単体および主要連結子会社の状況
- III. 足元の事業環境認識
- IV. 2024年3月期 業績見通し

I. 2024年3月期 第1四半期 決算概要

連結業績

【単位：百万円】

連結	2023年3月期実績				2024年3月期				前年 増減額	前年比 (%)
	1Q	上期	下期	通期	1Q 実績	上期 計画	下期 計画	通期 計画	1Q	1Q
売上高	65,541	138,399	135,017	273,416	67,080	137,000	136,500	273,500	1,539	2.3%
営業利益	8,789	18,412	11,607	30,019	9,331	17,400	13,100	30,500	542	6.2%
経常利益	9,777	20,874	13,542	34,416	10,292	19,200	13,800	33,000	515	5.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,453	13,946	10,218	24,164	6,770	12,800	9,700	22,500	317	4.9%

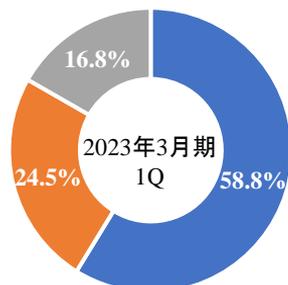
連結業績総括

- 第1四半期進捗は、期初に当社が予想した水準を上回る業績であった。
(特に利益面)
- 販売数量において、日本(単体)は前年対比 $\Delta 8.8\%$ となり、北米およびアジアは前年対比増となったが、全体では $\Delta 1.4\%$ の減少となった。
- 売上高は、北米・アジアが減収になったものの、日本セグメントは増収となり連結では増収となった。
- 利益面は、日本が減益となり、北米・アジアが増益であったことから、連結の営業利益は増益となった。
営業外損益は、為替差益の減少などから前年対比で27百万円悪化したが、経常利益は増益となった。
特別損益は、関係会社株式売却益などから前年対比で4億23百万円改善した。
これらの結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は増益となった。

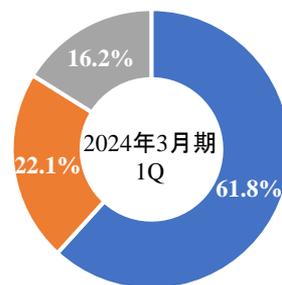
セグメント別売上高実績

【単位：百万円】

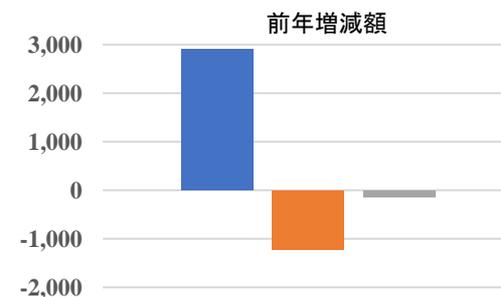
売上高	2023年3月期実績				2024年3月期				前年 増減額	前年比 (%)
	1Q	上期	下期	通期	1Q 実績	上期 計画	下期 計画	通期 計画	1Q	1Q
日本	38,529	78,523	84,721	163,244	41,429	85,504	86,651	172,155	2,900	7.5%
北米	16,032	36,143	28,908	65,051	14,809	28,540	24,465	53,005	-1,223	-7.6%
アジア	10,978	23,733	21,386	45,119	10,840	22,956	25,384	48,340	-138	-1.3%
合計	65,541	139,466	135,017	273,416	67,080	137,000	136,500	273,500	1,539	2.3%



■ 日本 ■ 北米 ■ アジア



■ 日本 ■ 北米 ■ アジア



■ 日本 ■ 北米 ■ アジア

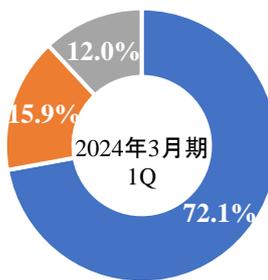
セグメント別営業利益実績

【単位：百万円】

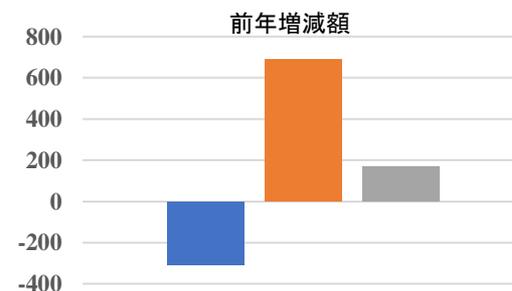
営業利益	2023年3月期実績				2024年3月期				前年 増減額	前年比 (%)
	1Q	上期	下期	通期	1Q 実績	上期 計画	下期 計画	通期 計画	1Q	1Q
日本	6,971	13,739	13,749	27,488	6,662	11,372	11,235	22,607	-309	-4.4%
北米	778	2,839	-1,661	1,178	1,467	3,661	-93	3,568	689	88.5%
アジア	935	1,621	-637	984	1,106	2,168	1,829	3,997	171	18.3%
調整額	104	210	158	368	94	199	129	328	—	—
合計	8,789	18,412	11,607	30,019	9,331	17,400	9,700	30,500	542	6.2%



■ 日本 ■ 北米 ■ アジア



■ 日本 ■ 北米 ■ アジア



■ 日本 ■ 北米 ■ アジア

セグメント別トピックス

- 日本は、単体において、海外調達コイル価格の値上げと一部数量を確保する動きが市場にあり、市況が軟化し、スプレッド幅はやや下落傾向となった。
丸ステンレス鋼管は、BA管の販売本数が期初想定程には落ち込まず、ステンレス管・BA管の値上効果もあり日本セグメントの売上高は増収となった。
利益は、丸ステンレス鋼管は増益を確保したものの、単体が数量減および電力等のコストアップもあり減益となった。
- 北米は、米国の熱圧コイル(HRC)価格が上昇したが、製品価格への転嫁に努め、健全なスプレッドを確保でき受注も堅調に推移した。
売上高は、販売数量が増加したものの、前期の高いHRC価格水準を背景とした販売価格対比では単価が下がっており北米セグメントは減収となった。
利益は、HRC価格の上昇に連動した製品販売価格の値上げがコイル消費単価の上昇に先行し、結果スプレッドが改善できたことから増益となった。
- アジアは、ベトナムのSUNSCO社では、中国のゼロコロナ政策転換による市況回復に勢いが無く、ベトナム国内需要も回復の兆しが無い中で、輸出の販売増により販売数量は前年を上回る。
インドのKUMA社では、乗用車販売が好調で販売数量は前年を上回る。
結果、売上高は、SUNSCO社で数量は増加したものの市況の影響から販売単価が下がり、アジアセグメントは減収となった。利益は、SUNSCO社やKUMA社も含め各社増益となった。

II. 単体および主要連結子会社の状況

売上高・段階利益の推移

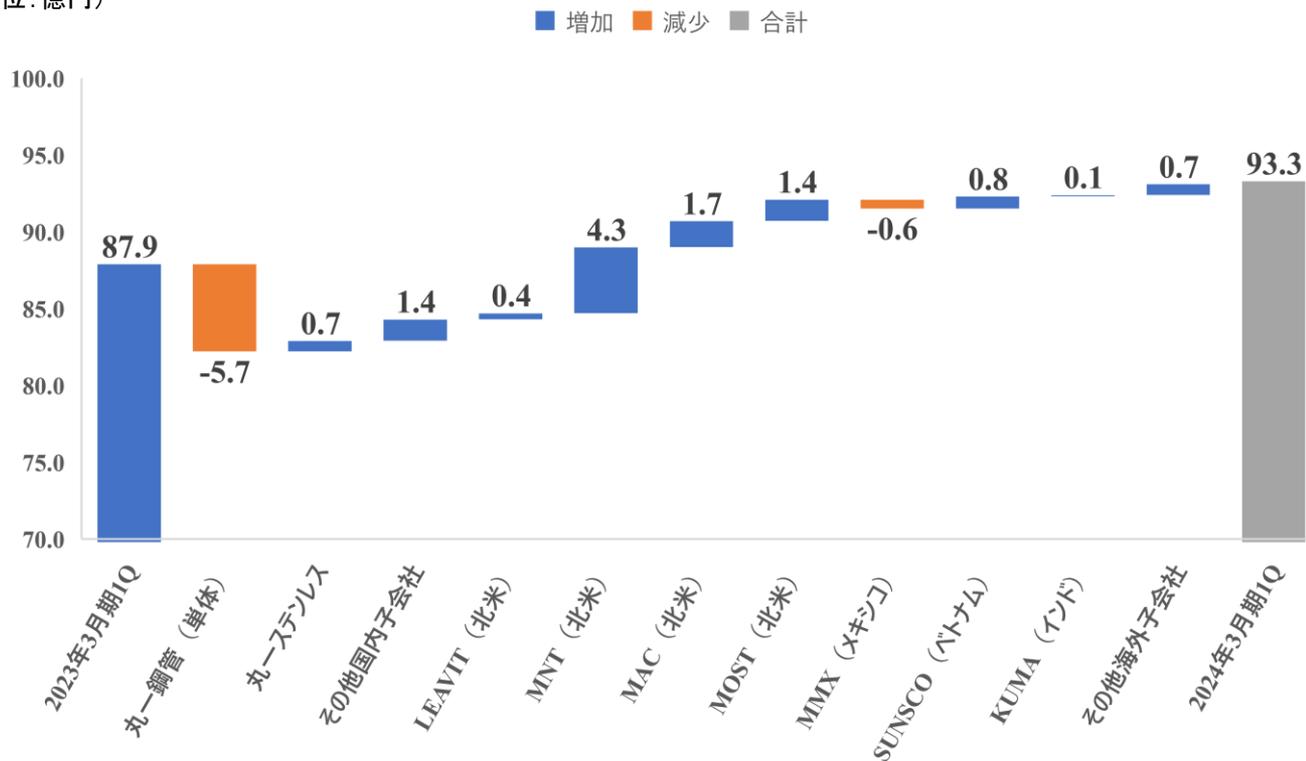
個別段階利益 (単位: 億円)	売上高					営業利益					経常利益					(親会社株主に帰属する) 当期純利益				
	23/3期				24/3期	23/3期				24/3期	23/3期				24/3期	23/3期				24/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
丸一鋼管	312.1	306.7	327.5	320.1	309.5	54.6	51.6	46.8	48.7	48.9	73.6	67.7	53.6	55.9	78.1	52.8	48.8	38.5	46.1	62.2
丸一ステンレス	61.1	77.8	85.3	81.2	78.6	11.2	11.2	18.9	12.8	11.9	11.3	11.2	19.0	12.8	12.0	7.3	7.4	12.9	9.7	7.9
その他国内子会社*1	188.6	188.9	202.9	194.6	212.0	3.6	5.7	6.8	2.1	5.1	7.9	6.3	7.1	2.4	9.6	5.6	4.3	4.8	1.9	6.8
LEAVIT(北米)	75.4	94.3	72.5	63.3	69.4	7.1	10.0	-2.3	-5.5	7.4	6.9	9.9	-1.9	-5.7	7.2	5.8	5.6	0.7	-2.3	3.9
MNT(北米)	13.9	13.0	12.8	10.6	12.0	-3.3	-0.5	-4.2	0.0	0.9	-3.3	-0.5	-4.2	0.1	0.9	-3.3	-0.5	-4.2	-1.1	0.9
MAC(北米)	39.0	55.5	43.7	35.1	35.5	2.0	7.2	2.5	-1.8	3.7	2.0	7.4	3.3	-1.2	4.1	1.5	5.3	2.5	-1.0	2.9
MOST(北米)	23.4	29.2	19.0	15.0	22.0	-0.2	1.9	-2.9	-4.2	1.3	-0.2	1.9	-2.9	-4.4	1.2	-0.2	1.9	-2.9	-4.4	1.2
MMX(メキシコ)	9.5	10.3	10.4	9.5	10.9	2.7	2.4	1.8	1.3	2.1	2.8	2.3	1.8	1.3	2.2	2.3	1.4	1.0	1.9	1.5
SUNSCO(ベトナム)*2	85.6	98.3	80.8	78.4	79.9	7.0	3.4	-13.7	1.2	7.7	9.7	4.5	-13.5	3.1	7.1	9.5	4.6	-13.5	2.9	6.5
KUMA(インド)	25.4	30.5	26.7	27.0	28.1	2.5	3.4	2.7	2.7	2.6	2.1	3.0	2.6	3.1	3.1	1.6	2.1	2.1	2.2	2.4
その他海外子会社	1.5	1.7	2.7	3.6	3.2	-0.1	0.0	0.2	0.2	0.6	-0.2	0.0	0.1	0.4	0.9	-0.2	0.0	0.1	0.4	0.9
持分法適用関連会社											1.2	0.9	10.1	1.4	0.9					
連結調整	-180.1	-177.7	-188.9	-183.6	-190.3	0.8	0.0	1.0	1.0	1.1	-16.0	-3.7	-1.1	-7.8	-24.4	-18.2	-6.0	12.6	-8.7	-29.4
合計	655.4	728.5	695.4	654.8	670.8	87.9	96.2	57.6	58.5	93.3	97.8	110.9	74.0	61.4	102.9	64.5	74.9	54.6	47.6	67.7

*1 2024年3月期第1四半期より、その他国内子会社に「東洋特殊鋼業株式会社」を加えております。

*2 SUNSCO(ベトナム)は、ホーチミンとハノイの合算となっております。

連結営業利益の増減要因(23年3月期1Q実績→24年3月期1Q実績)

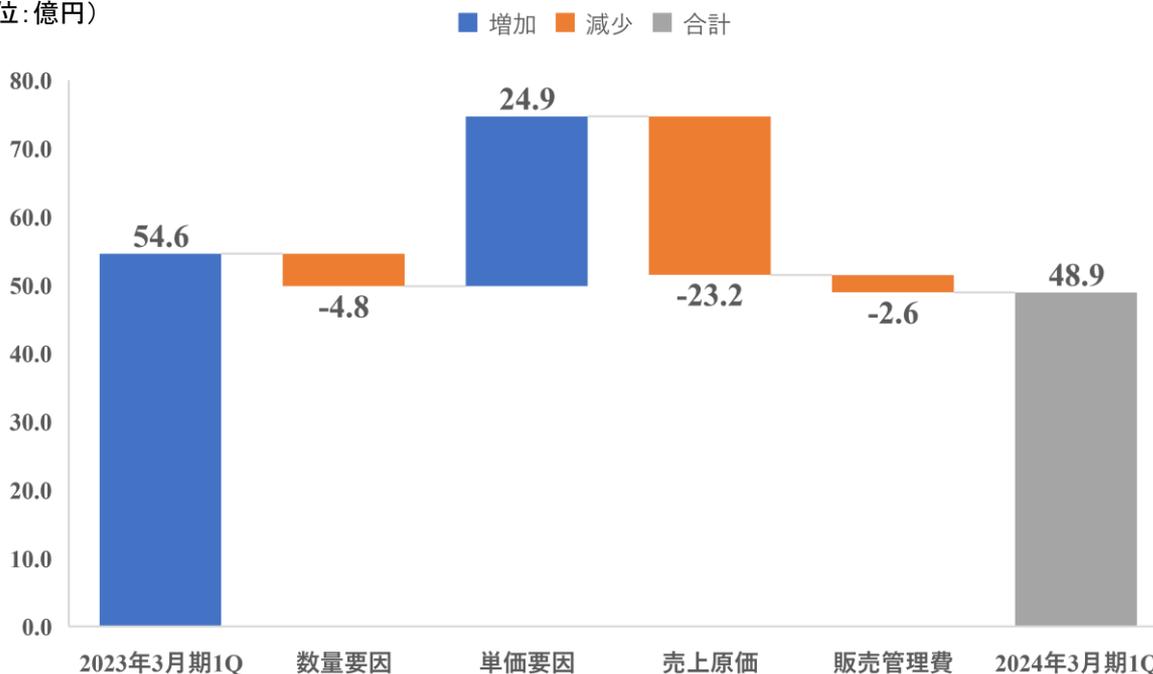
(単位: 億円)



- 丸一鋼管(単体)とMMX(メキシコ)で減益となったものの、他の主要連結子会社は増益となった。

単体営業利益の増減要因(23年3月期1Q実績→24年3月期1Q実績)

(単位:億円)



➤ 総販売数量は、172千トンとなり前年対比△8.8%の減少。

単体及び海外の出荷数量の推移

販売数量 単位:千トン		四半期ベース					前年比	(参考)半期ベース	
		23/3期				24/3期	1Q比	23/3期	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		上期	下期
丸一鋼管	建築構造用	115.0	103.9	102.5	97.9	104.5	-9.1%	218.9	200.4
	機械構造用	32.9	34.6	36.7	35.8	34.1	3.3%	67.5	72.5
	その他	40.5	33.9	38.7	37.3	33.2	-18.0%	74.4	76.0
	小計	188.4	172.4	177.9	171.0	171.8	-8.8%	360.8	348.9
北米(4社)		60.6	68.2	55.3	54.5	70.1	15.6%	128.8	109.8
MMX(メキシコ)		2.8	2.9	2.8	2.7	3.4	19.9%	5.7	5.5
SUNSCO(ベトナム)		54.6	56.2	46.4	49.9	55.9	2.4%	110.8	96.3
KUMA(インド)		7.6	8.6	7.6	7.6	8.2	7.2%	16.2	15.2
その他		4.2	4.5	4.6	5.2	4.3	2.4%	8.7	9.8
合計		318.2	312.8	294.6	290.9	313.7	-1.4%	631.0	585.5

- 単体の販売数量は、引き続き中小建築案件の低迷により、建築構造用が9.1%減。自動車生産の回復から、機械構造用が3.3%増。その他は、農芸用・配管用・輸出などとなるが、輸出の半減が影響し、18%減。海外各社は全て増加。

主要連結子会社の状況

丸一鋼販株式会社

(単位:百万円)

業績 推移	2023年2月期実績					2024年2月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q実績	年間計画
売上高	11,505	11,339	12,433	11,672	46,949	12,022	48,288
営業利益	211	383	435	224	1,253	348	1,122

- 販売数量は前年に対して3%減ではあるが、販売単価の上昇により、売上高は上回った。
- 引き続き切断加工設備を保有する12営業所でのカットコラムの拡販に注力しているが、中小建築物件の低迷により苦戦した。
- 丸一鋼管グループは、2025年大阪・関西万博の各パビリオンの建築構造に貢献しています。



主要連結子会社の状況

丸ステンレス鋼管株式会社

(単位:百万円)

業績 推移	2023年3月期実績					2024年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q実績	年間計画
売上高	6,108	7,775	8,526	8,123	30,532	7,857	28,684
営業利益	1,124	1,113	1,891	1,278	5,406	1,195	3,150

- 2023年度は半導体市場の端境期となっており、市中在庫調整局面もあって低調な滑り出しとなった。
- ステンレス鋼管市場も中国市場の低迷から市況に勢いが無く、相場は、じり安の状況となった。
- テキサス新工場の建設は順調に進んでおり、2024年以降の半導体市場の回復に備えている。



Maruichi Stainless Tube Texas Corporation
(MST-X)

現在、屋根部工事を実施
2024年1Q稼働予定

主要連結子会社の状況

LEAVIT・MNT(北米)

(単位: US \$ thousand)

業績 推移	2022年12月期実績					2023年12月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q実績	年間計画
売上高	73,607	79,020	56,784	47,097	256,508	57,132	201,414
営業利益	3,022	7,607	-2,403	-6,119	2,107	5,372	10,241



- 米国CRUは12月7日に底値を記録したがその後上がり続けた。鋼管価格はCRUほどの上下はなく、以前に比べてもスプレッドは比較的確保できた。
- 夏の不需要期に販売低下が予想されるため、今年も例年のごとく秋に販売が増えれば、需要の落ち込みではなく季節的要因であると考えられる。
エンドユーザーは概して堅調な需要で忙しく、今年末にはスタートするであろう政府のインフラ投資がインフレによりクールダウンした景気を再度活性化してくれるのではないかと期待している。

主要連結子会社の状況

MAC(北米)

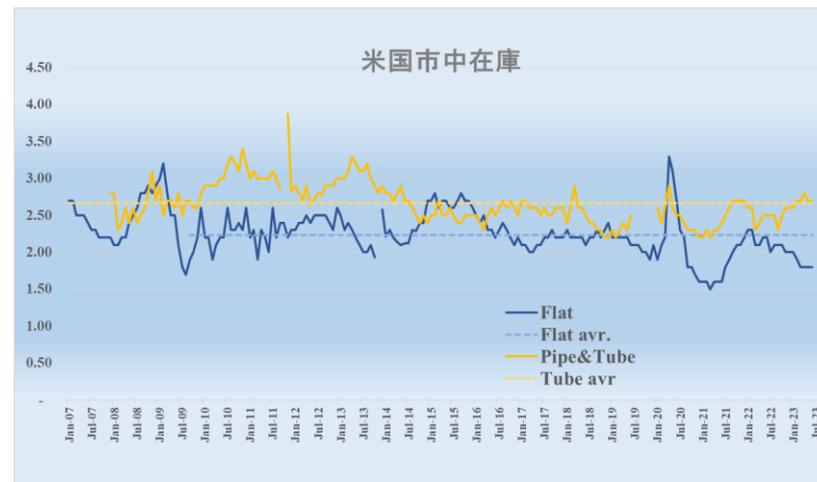
(単位: US \$ thousand)

業績 推移	2022年12月期実績					2023年12月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q実績	年間計画
売上高	33,443	43,170	30,822	23,765	131,200	26,624	106,215
営業利益	1,710	5,809	1,787	-1,901	7,405	2,760	8,502

MOST(北米)

(単位: US \$ thousand)

業績 推移	2022年12月期実績					2023年12月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q実績	年間計画
売上高	19,801	21,382	12,698	9,709	63,590	16,097	58,809
営業利益	-145	706	-586	-4,898	-4,923	951	4,054



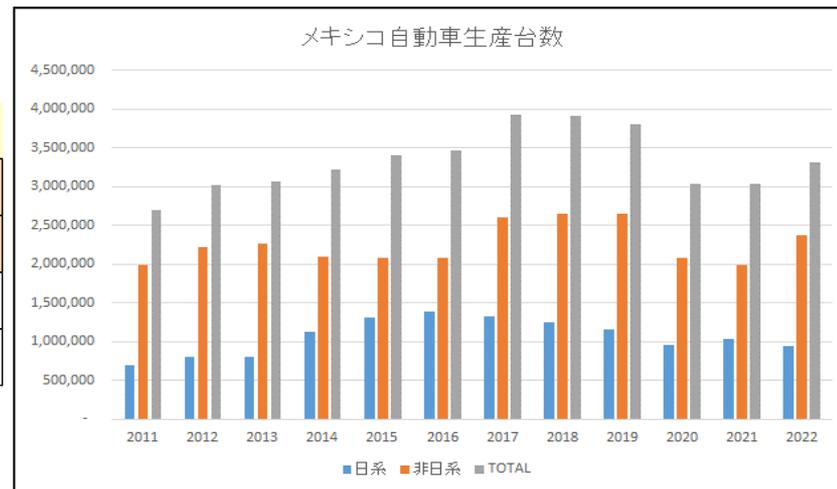
- 米国市況は昨年末に底を打ち、年初から回復基調。出荷数量も当用買い中心で比較的安定したものとなった。
- 年始からの相場も大きな混乱がなく、相場には動きあるものの受注レベルは健全であった。
- 急速に進むインフレへの懸念も引続きあるものの、現在のところ市場はそれをうまく吸収しているように見え、相場の動きに反して市場が冷静であるため、問屋(サービスセンター)の大きな在庫調整も起こっていない。

主要連結子会社の状況

MMX(メキシコ)

(単位: US \$ thousand)

業績 推移	2022年12月期実績					2023年12月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q実績	年間計画
売上高	8,132	7,954	7,504	6,617	30,207	8,213	29,800
営業利益	2,413	1,980	1,382	1,056	6,831	1,740	5,500



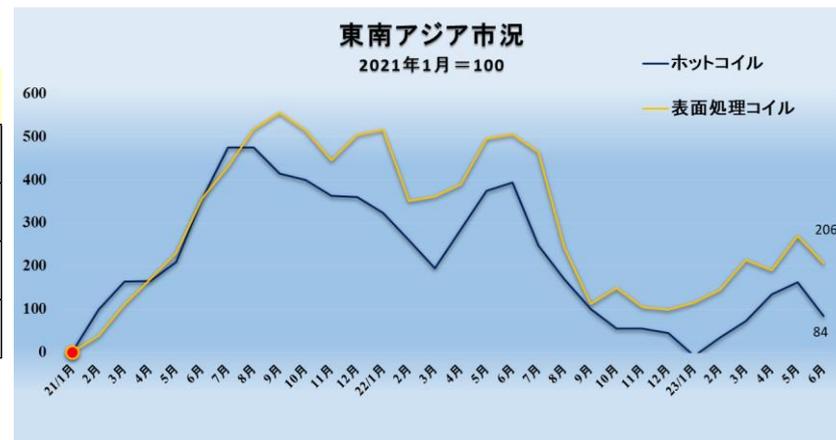
- 自動車OEM各社の半導体在庫不足の解消に目処が付きつつあり、生産台数の回復の兆しがある。
- 当社の販売数量はコロナ前の数量に回復している。
- コイル在庫は通常レベルよりも高かった為、発注量の調整をして在庫量調整をおこなった。

主要連結子会社の状況

SUNSCO (ベトナム)

(単位: US \$ thousand)

業績 推移	2022年12月期実績					2023年12月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q実績	年間計画
売上高	73,504	75,974	57,006	54,657	261,141	60,306	272,901
営業利益	3,564	122	-13,473	-1,345	-11,132	4,212	13,828



- 昨年12月に中国がコロナ規制を緩和をしたことを受け、市況が回復傾向。3月までに100ドル以上価格が上昇した。これを受けて、これまで当用買い中心であった鋼板販売代理店からの受注増などで1Qは販売数量増、単価上昇などにより計画比を上回る。
- 一方、国内需要はベトナム政府が金利引き下げなどで不動産・建築需要を喚起させようとしているが、余り効果は見られず、需要回復にはしばらく時間が掛かる見込みである。
- 引き続き、鋼板・パイプとも輸出にドライブを掛けながら、在庫管理の徹底および借入金の削減を進めていく。

主要連結子会社の状況

KUMA(インド)

(単位: US \$ thousand)

業績推移	2023年3月期実績					2024年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q実績	年間計画
売上高	19,797	22,337	19,351	20,436	81,921	20,787	77,969
営業利益	1,908	2,415	1,893	2,006	8,222	1,904	7,677



- インド4輪生産台数はSUV販売が牽引し、1Q(4~6月)も引き続き好調に推移した。
- 2輪の生産台数はコロナ前の水準には戻っていない状況ではあったが、前年同期比を僅かに上回った。
- 全体としては堅調に推移しており、1Q実績は販売数量、利益ともに計画を達成した。
- 高金利や燃料高騰などの懸念は続くが、平年並みのモンスーン予想とインフレ緩和の傾向もあり引き続き堅調な消費による成長が見込まれる。

III. 足元の事業環境認識

国内 需要	鋼板類	<ul style="list-style-type: none"> ●国内自動車生産が回復しつつあり、鋼板類は比較的堅調な状況である。 ●エネルギー、運送コスト等の上昇が鋼材価格の下支えとなっている。 ●韓国・台湾ミルは中国市況の回復期待から、値下げには拒否的な姿勢である。
	鋼管類	<ul style="list-style-type: none"> ●国内市況は国内コイル価格に大きな変化が無く高値で張り付いた状況が続く。 ●一方、鋼管価格は回復基調にある自動車向けと中径杭は堅調であるものの、中小建築案件が依然として少なく、コラム・足場管等の需要が低調。 ●農業・酪農関係も振るわず、一部メーカーで数量確保の姿勢が見られ市況軟化の原因となっており、分野によってばらつきが認められる。

海外 需要	北米	<ul style="list-style-type: none"> ●インフレ懸念はあるものの、引き続き鋼材需要は堅調である。 ●2023年1月～3月は価格上昇の展開となったが、4月に入って一旦ピークアウト。直近では再び上昇局面となったが、いずれも小幅な動きで、市況は比較的冷静に対処している。
	中国	<ul style="list-style-type: none"> ●ゼロコロナ政策の解除による市況回復の期待あったが、不動産関連が低調な状況で鋼材市況にも影響を与えている。 ●中国高炉メーカーは、昨年と同レベルの生産を維持すると予想されており、低迷する国内需要の余剰コイルがアジア・欧州に輸出されている。
	ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> ●中国の価格上昇を受け、市況は100ドル以上回復するも、需要期待できず、先行きが不透明な状況である。 ●国内建築・不動産需要は依然として低迷しており、引き続き鉄鋼市場は厳しい状況にある。

IV. 2024年3月期 業績見通し

- 第1四半期進捗は、予想を上回る水準で推移しているが、特に下半期以降の不透明感が強いこともあり、前回公表値を据え置く。

【単位：百万円】

連結	2023年3月期実績					2024年3月期					上期計画 進捗率
	1Q	2Q	上期	下期	通期	1Q 実績	2Q 残計画	上期 計画	下期 計画	通期 計画	1Q
売上高	65,541	72,858	138,399	135,017	273,416	67,080	69,920	137,000	136,500	273,500	49.0%
営業利益	8,789	9,623	18,412	11,607	30,019	9,331	8,069	17,400	13,100	30,500	53.6%
経常利益	9,777	11,097	20,874	13,542	34,416	10,292	8,908	19,200	13,800	33,000	53.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,453	7,493	13,946	10,218	24,164	6,770	6,030	12,800	9,700	22,500	52.9%

- 日本は、販売数量の確保が難しい状況であるが、スプレッドの維持努力をおこなう。
- 北米は、HRC価格変動に対して鋼管価格は上下が少ないため、販売数量とスプレッドの確保による利益改善に努める。
- アジアは、中国のコイル価格が6月より下降していることもあり、ベトナムのSUNSCO社が厳しい状況となることも想定され、堅調なインドのKUMA社などの利益確保に努める。

2030年を想定した長期ビジョン開示・説明会

2023年10月17日(火)予定

注意事項

本資料の計画・見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものです。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの計画・見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。